

2025年1月28日

Zip Infrastructure 株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社

自走式ロープウェイ「Zippar」による新しい交通サービスの実現に向けた連携協定の締結について

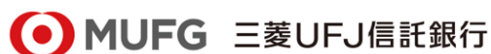
Zip Infrastructure 株式会社（代表取締役 須知 高匡、レボンキン マリオ・イアン・カロス・フェリド、以下 Zip Infrastructure）と、三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 長島 巖、以下 三菱UFJ信託銀行）は、新たな交通システムである自走式ロープウェイ Zippar（ジッパー）※の都市交通としての導入を実現することを目的に連携協定を締結いたしました。三菱UFJ信託銀行は、新たな交通サービスの導入による公共交通の課題解決、地域経済の活性化および持続的な脱炭素社会の実現を目指して、Zippar を用いた各種取組に参画していきます。

■取組について

地域の公共交通確保や特定のエリア・施設等へのアクセス性の改善を目的として、鉄軌道交通の整備や専用レーンでのバス運行の導入等の検討が多く都市で進められています。一方で、整備費や人員（バス運転手）確保等が大きな課題となるケースが多く、このような課題の解決のためには、既存交通システムでは対応できないニーズに応える新たな交通システムの活用が考えられます。

三菱UFJ信託銀行は、新領域への挑戦を掲げており、これまで蓄積してきた金融ノウハウを活かし、インフラ投資を通じた社会課題の解決を検討しています。また、Zip Infrastructure は、世界の都市部で多くの経済損失を生む「渋滞問題」等の交通課題の解決を目指すための新しい交通システムである、自走式ロープウェイ「Zippar」の開発に取り組んでいます。

本協定の締結により、両社は、都市交通としての Zippar の導入に向けた官民連携事業スキームの検討や Zippar の特徴を踏まえた導入適地の探索等での連携を推進し、公共交通の課題に対する新たなソリューションの社会実装を目指します。



インフラ投資を通じた
社会課題の解決

新交通システム開発による
交通課題の解決

・信託を活用したスキームの構築力
・顧客基盤とネットワーク
・インフラ・オルタナティブ投資の知見

公共交通の課題に対する
新たなソリューションの実装

・メーカー等との連携による開発力と発想力
・交通システム開発の知見・経験を有する多様な人材

(Zippar 試作機の写真と特徴)

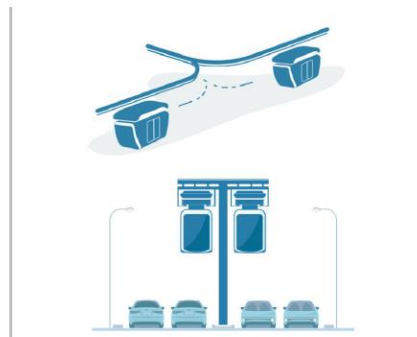


低コスト



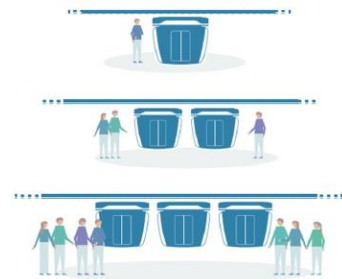
ロープと軽量レールの組み合わせにより、鉄道の1/10の建設費で導入可能、運賃も既存交通と同等

短期で建設可能



カーブと分岐が小スペースで済み、道路上に設置可能なため土地買収と道路拡張は最小限

定時性



上空を走るのので、道路に影響されることがなくかつ無人自動運転のため、定時性の高い移動を提供可能

※ Zippar（ジッパー）とは、「低コスト・自由設計・自動運転」を特徴とするものであり、従来モノレールの半分程度の輸送量が確保できるシステムを 1/5 程度のコストと期間で建設可能な新たな交通システムです。通常のロープウェイは建設期間が短く、コストが低い交通手段ですが、道路上でのカーブに沿った設置ができないため、都市部での導入が困難とされています。Zippar は車体本体にバッテリー及びモーターを搭載しているため、自走式で直線部はロープ、カーブ部分はレールを連続的に走行することを可能としています。

以 上

■Zip Infrastructure 株式会社について

Zip Infrastructure は 2018 年に設立された慶應義塾大学発のスタートアップ企業です。世界の都市部で多くの経済損失を生む「渋滞問題」の解決を目指すための新しい交通システムである、自走式ロープウェイ「Zippar」の開発に取り組んでいます。Zip Infrastructure は 2018 年より神奈川県にて開発を進め、2023 年 4 月には神奈川県秦野市にて 12 人乗りテストモデル車両の走行に成功しています。現在は開発拠点を福島県南相馬市に移転しており、神奈川県や沖縄県豊見城市等各自自治体と連携協定を締結しながら「渋滞のない、どこでも駅徒歩 5 分圏内となる世界」の創造を目指しています。

公式 HP : <https://zip-infra.co.jp>